

第72巻の巻頭にあたって

全国国立病院院長協議会
会長

直江 知 樹

IRYO Vol. 72 No. 1 (3) 2018

皆様、新年明けましておめでとうございます。「医療」第72巻のスタートにあたり、ご挨拶申し上げます。

今回の巻頭言を書くにあたって、第1巻1号を見ようと思いましたが、1986年以降しか開架に保存されていませんでした。しかし第1巻（1946年）から第62巻（2008年）分は総合学術電子ジャーナルサイト「J-STAGE」で読めることを教わりました。論文をクリックしますと戦後の混乱期の医療を感じることができました。発刊以来70年を超える歴史と、これまで編集に関わってこられた多くの方々へ改めて敬意を表したいと存じます。開架にある「医療」をめくりますと、臨床研究、症例発表などは学会誌や商業誌に比べても遜色なく、国立病院時代の医師たちの研究発表にかけの思いが伝わってくるようでした。1996年に冊子体がA4版へと改められています。2000年を過ぎた頃からでしょうか、原著論文は急に少なくなってきております。代って国立病院総合医学会のシンポジウムの抄録、あるいはテーマに沿った依頼総説が多くなっています。原著論文が集まりにくくなった理由をあえて考えてみますと、まず医学・医療が専門分化する中、専門誌に投稿するようになったことがあると思います。またこの時期は、国立病院の独法化（2004年）、「疫学研究に関する倫理指針」（2002年）や「臨床研究に関する倫理指針」（2005年）策定の時期とも一致します。この頃に臨床論文のハードルが高くなったことは想像に難くありません。

昨年の巻頭言で楠岡理事長は、毎年秋に開催される国立病院総合医学会（以下、「総合医学会」）が参

加者数も多く発展を続けているのに比べ、「医療」は発行数も伸びず財政的にも不安定であることを述べられています。さらに「医療」の継続的な発展のため、会員数の増加、本誌への積極的な投稿を呼びかけておられます。私はそうした努力と同時に、「医療」発行とともに「総合医学会」を国立医療学会の2大事業と位置づける時期が来ていると考えています。（読者の中には国立医療学会については不案内な方もいらっしゃると思いますが、「医療」はこの学会が発行しています）「総合医学会」は会長施設を中心に運営されていますが、「総合医学会」の主催組織がはっきりしないという問題を抱えています。「総合医学会」の会計やプログラム編成さらに資金集めなど、会長・副会長施設の努力に負っていますが、将来的には大きな負担となるかもしれません。もしも「総合医学会」を国立医療学会の（学術）集会和位置づけることができれば、幾つものことが可能になります。たとえば、学会事務局が経年的に会計やプログラムを管理することが可能ですし、学会集会では参加費とともに学会年会費（たとえ1000円でも500円でも良い）も集め集会参加者を自動的に会員とすることもできます。抄録集は「医療」の特集号としてさらに多くの記事を載せることができるでしょう。この案は学会・集会・雑誌それぞれにメリットがあり、外への透明性も確保できるように思います。

巻頭言のつもりがやや過ぎたことまで書いてしまいました。国立医療学会が毎月、質の高い雑誌発刊をつづけていることは大変誇らしく、今後共ぜひ継続し発展していただきたいと存じます。

（国立医療学会理事、名古屋医療センター院長）